

「台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部2年 (氏名 橋本彩)

2019年3月4日から23日の約三週間台湾に渡航し、国立台湾大学で開講されたスプリングスクールに参加してきました。私にとって今回の渡航の主な目的は、中国語能力の向上、三週間の短期留学による将来の長期留学の計画、国内外の他大学の学生・人々との交流の三つでした。これらの目的を踏まえ感じたことを挙げます。

まずプログラム本体について述べます。三週間海外に滞在するのは初めてでしたが、この期間は台湾大学での学生生活を一通り経験するために十分な長さでした。もちろん帰国時にはもっと時間が欲しいと思いましたが、滞在中に大学内外で満足できる一通りの経験や活動が出来ました。次にこのプログラムの参加者に対する各種ケアですが、もともと台湾大学が開校しているプログラムだというだけあって、非常に手厚く扱っていただけたと思います。渡航前に現地の生活のための心得を冊子にして提供してくれただけでなく、担当職員の方や学生ボランティアの連絡先が知らされており、いつでも連絡・相談ができるという安心感がありました。また台湾での日々の生活ですが、平日午前中の中国語の授業の後、金曜日を除く平日の午後は文化研修や文化学習がありました。内容は台湾で一般的な風習・文化をレクチャーしてもらうものから、伝統的な人形劇など台湾人も普段は触れないような特別なものまで様々でした。これらの授業は台湾文化・歴史・風俗を理解する上で非常に助けとなり、かつ台湾人学生や講師の先生方との交流にも役立ちました。

プログラム本体のイベント以外にも、特筆すべき経験がありました。滞在中二回週末があり、日曜日は一日自由時間でした。私は一回目の日曜日に市内の探索、二回目は竹南の方面へ出かけました。他に新幹線で遠出をしている人もおり、各人思い思いに楽しんでいました。私は行く先々で現地の人と会話することを心がけており、ガイドブックに載るような観光地以外の場所に出かけた際には、中国語での人々との交流を楽しみました。

今回の渡航を総括すると、以下の三つになります。一年前中国浙江大学に留学した際と比べて中国語の特にリスニング能力が向上したこと、現地学生や他の参加者との交流により国内外の交友関係が広がったこと、将来の留学にモチベーションが湧いたことです。今回のプログラム一回限りの経験としてではなく、これからの学生生活や人生に影響を及ぼす留学経験となりました。